

2023年1月

第148号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888



「年頭に当たって」

新年あけましておめでとうございます。

昨年は寅年。虎が牙をむいたような大事件が相次ぎ激動の1年となりました。

特に、2月24日領土拡張のためにロシアが隣国のウクライナに「特殊事情作戦」と称して侵略戦争を引き起こしたことは、これまで平和を享受してきた国々にとって、驚きと同時に現代社会においてもこのような戦争が起こりうることを強く印象づけた事件でもありました。9月にはプーチン大統領がウクライナの南部4州を一方向的に併合宣言するなど戦争が激化し、さらに長期化の様相を見せています。

ウクライナからの報道では民間施設や発電所などへの攻撃が相次ぎ、厳冬の中、電気の使用もままならない状況が現在も続いておりウクライナの人々が過酷な生活を余儀なくされている現状が報告されています。

中国共産党では10月に第20期中央委員会第1回総会が開催され習近平総書記が異例となる3期目の政権が発足しました。その演説の中で「台湾併合」のために武力行使は放棄しないと、物騒な発言も飛び出しています。北朝鮮は相変わらず中長距離ミサイルの発射実験と称してたびたび日本海にミサイルを撃ち込んでいます。日本ではこれらに対して防衛力強化の為、「反撃能力の強化」や「財源確保の問題」・「憲法の戦争放棄」との関連性などについて検討が進められております。

日本関連では7月に奈良市で安倍元総理が参議院議員応援演説中に無職の男に銃撃されお亡くなりになりました。男は母親が「世界平和統一家庭連合」から多額の献金を強いられ、安倍元首相はその会とつながりがあると思って狙ったと述べており、この会のあり方が問題となっています。

また、ソ連の侵略による穀物の輸出問題、米国の金利上昇などの影響から32年ぶりにドル相場が150円台へと円安が進むなど資源の乏しい我が国の現状が再認識され、「穀物」「石油製品」等輸入に頼らざるをえない物資の価格上昇が相次ぎ生活を脅かすほどとなりました。

明るいニュースとしては、6月海洋冒険家の堀江謙一さんが世界最高齢(83歳)でヨットでの単独無寄港太平洋横断に成功。日本の探査機「はやぶさ2」が小惑星リュウグウから持ち帰った石や砂からアミノ酸23種を発見。8月には米大リーグ大谷選手がベーブルース以来104年ぶりで「2桁勝利、2桁本塁打」を達成。104回全国高校野球で仙台育英高校が東北勢では初の優勝を飾り、北京冬季オリンピックや12月のサッカーワールドカップでも日本選手の活躍が目立ち、特にボクシングの井上選手の4団体統一王者は大きな感動を与えてくれました。

今年は「うさぎ年」対話で物事を解決する平和な年となるよう願っています。

おじけづいたら負ける

ニーチェの言葉

「ああ、もう道はない」と思えば、打開への道があったとしても、急に見えなくなるものだ。

「危ないっ」と思えば、安全な場所はなくなる。

「これで終わりか」と思い込んだら、終わりの入口に足を差し入れることになる。

「どうしよう」と思えば、たちまちにして最適な対処方法がみつからなくなる。

いずれにしても、おじけづいたら負ける、破滅する。

相手が強すぎるから、事態が今までになく困難だから、状況があまりにも悪すぎるから、逆転できる条件がそろわないから負けるのではない。

心が恐れを抱き、おじけづいたときに、自分から自然と破滅や敗北の道を選ぶようになってしまうのだ。

【たわむれ、たばかり、意趣ばらし】

必要な鈍さ

ニーチェの言葉

いつも敏感で鋭くある必要はない。特に人と交わりにおいては、相手のなんらかの行為や考えの動機を見抜いていても知らぬふうにいるような、一種の偽りの鈍さが必要だ。

また、言葉をできるだけ好意的に解釈することだ。

そして、相手をたいせつな人として扱う。しかし、こちらが気を遣っているふうに決して見せない。

相手よりも鈍い感じている。

これらは社交のコツであるし、人へのいたわりともなる。

【人間的な、あまりに人間的な】

若い人達へ

ニーチェの言葉

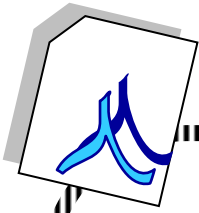
自由な高みへときみは行こうとしている。しかしながらそういうきみは、若さゆえに多くの危険にさらされてもいる。

しかし、わたしは切に願う。きみの愛と希望を、決して捨て去ったりするな、と。

きみの魂に住む気高い英雄を捨てるな、と。

きみの希望の最高峰を、神聖なるものとして保ち続けてくれ。

【ツァラトウストラはかく語りき】



湯川 秀樹 (物理学者、理学博士、ノーベル賞受賞者)

- 1907年1月23日(明治40年) 東京市麻布区市兵衛町に地質学者の父、小川琢治、母小雪の三男として生まれる。
- 1908年(明治41年) 父が京都帝国大学教授就任に伴い、京都市に移住。
- 1929年 京都帝国大学理学部物理学科卒業。
- 1932年 大阪胃腸科病院の院長の次女に婿養子となり、湯川姓となる。
- 1934年(昭和9年) 中間子理論構想を、翌年「素粒子の相互作用について」発表。
- 1939年(昭和14年) 京都帝国大学教授。
- 1940年(昭和15年) 帝国学士院恩賜賞受賞。
- 1942年(昭和17年) 東京帝国大学理学部教授。
- 1943年(昭和18年) 最年少で文化勲章受章。
- 1949年(昭和24年) 7月コロンビア大学客員教授就任。
同年10月ノーベル物理学賞受賞。
アジア人としては3人目、日本人としては最初の受賞者であった。
- 1966年(昭和41年) ノーベル平和賞の候補者に推薦されていたことが後に判明。
- 1975年(昭和50年) 前立腺がん発症し手術。
- 1981年9月8日(昭和56年) 急性肺炎、心不全を併発し自宅で死去。
享年74歳。勲一等旭日大綬章、従二位。

広島平和公園に湯川秀樹氏の短歌が刻まれている。

「まがつびよ ふたたびここにくるなかれ 平和をいのる人のみぞここは」

オススメの *BOOK*



「家事は大変って気づきましたか？」

著者 阿古 真理 出版社 垂紀書房

著者は1968年生まれ。作家、生活史研究家。最近は女性も職場で勤務するようになり、そのため家庭の炊事、洗濯、掃除、育児、それに介護などのほか細々とした雑用が女性の負担を多くしている実態が細かく記載されている。家庭での生活環境は大きく変化し電化製品などの普及により改善されてきているように見受けられるものの、実態は女性への負担の大きさに驚かされる。

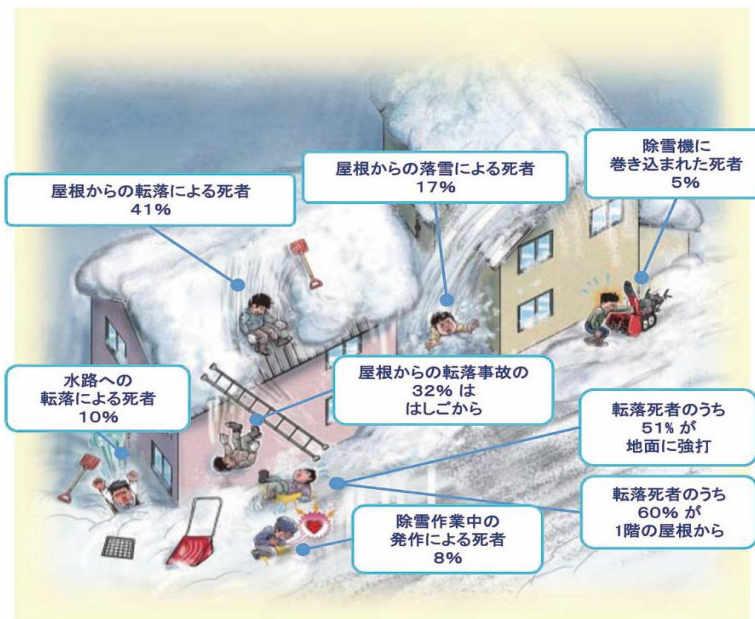
家族の協力体制をゆっくり考えてみる機会を提供している一冊と言える。

みんなで減災 大雪に備える

戦後の主な大雪としては、「昭和38年1月豪雪」、「平成18年豪雪」がありました。そして近年では平成22年度、23年度と記録的な大雪が続き、平成30年度は北陸や関東甲信越、東北太平洋側、関西地方など普段あまり雪が降らない地域にも大雪が降り、歴代最高の積雪や低温を記録しました。

秋田県のように恒常的な降積雪に見舞われる豪雪地帯では、屋根や道路等の除雪は必須です。そしてその除雪作業中に、屋根から転落する、屋根からの落雪に埋まる、除雪機に巻き込まれる、水路に転落するなど様々な要因で死亡事故が発生しています。

内閣府、国土交通省の報告書によると、大雪による死者の死亡状況の大半が除雪作業中でした。また死者全体のうち半数以上は65歳以上の高齢者です。除雪作業中の事故防止の徹底は重要な雪害対策です。除雪器具や装備の点検・手入れを行い、作業中の用具の取扱いにも



(出典「よくある除雪作業中の事故とその対策」チラシ 内閣府)

十分注意しましょう。また、除雪作業は複数人で行いましょう。家族や隣近所の地域コミュニティと協力して行い、作業の様子を確認しあうことが安全管理として重要です。除雪作業中の事故は「慣れた作業だから」といった小さな油断から発生することも多々あります。慣れや過信は禁物です。

どのような状況で除雪作業中の事故が発生しやすいのか、また安全な作業を行うためにはどのような点に気を付けたらよいのか確認し、冬本番に備えましょう。

【編集後記】

1年も過ぎ去ってみれば、あっという間の出来事のように思うことが多い。

昨年は戦争とかコロナなど余り有り難くないニュースが多かったような気がする。逆の見方をするといかに平時、無事に過ごせることがありがたいことか実感として強く思う。

新しい年は世界が平和で、コロナも退治できて笑顔が多い1年であってほしいと願わずにはいられない。

世界の人々が喜びを分かち会えるような1年であって欲しい。